

総 長 式 辞

早稲田大学と高麗大学校は1962年から始まったサッカー定期戦をきっかけに、1973年に学術交流協定を締結し、学術・スポーツ・文化活動分野で交流を深めてきたという長い歴史があります。さらには2002年に両大学の校友会間でも交流協定が結ばれ、学生・教職員・校友を含む多様なレベルでの交流が継続されてきました。

2024年5月には、私自身も高麗大学校から名誉博士号を授与いただきました。厳かな式を催していただいたこと、また大変な歓待をいただいたことがつい先日のことのようにです。その後も昨年10月の「日韓ミレニアム・フォーラム」や今年7月の韓国出張の際にも、高麗大学校を訪問させていただき、金総長はじめ皆様に温かく迎えていただきました。あらためて深く御礼申し上げます。

この両大学間の長い交流の歴史の新たな1ページとして、本日、具滋烈（ク・ジャヨル）様をお迎えし、また、多くの皆さまにご臨席いただき、この名誉博士学位贈呈式を開催できることは、私たちにとって大きな喜びであり、また誇りでもあります。

先ほど司会の紹介にもありましたように、具様はLSグループ会長として同グループを25か国・100拠点に展開するグローバル企業に導くなど、韓国産業の国際競争力強化に大きく貢献されました。また、2021年の第31代韓国貿易協会会長就任後には、「日韓交流特別委員会」を設置され、経済界の立場から日本の政財界との継続的な対話を通じて、両国の経済的信頼関係の回復に大きく寄与されています。

第33代高麗大学校校友会会長に就任された2019年以降は、コロナ禍により大変困難な時期であったにもかかわらず、具様は、一貫して高麗大学校の学生の修学継続支援に尽力されました。また、両校の校友会活動の活性化に取り組み、相互訪問やフォーラム開催など、交流の歩みを止めない積極的なリーダーシップによって、両大学校友会の関係が深まったことは言うまでもありません。

早稲田大学は、創立150周年である2032年、またさらにその先である2050年を見据えて、国際的に卓越した研究大学となり、世界人類に貢献する大学となることをめざしています。明日、10月19日には、「早稲田大学創立150周年記念事業オープニングセレモニー」を挙行し、いよいよ150周年記念事業も開始いたします。具様のこれまでのご功績は、グローバルリーダーとして、また貢献の早稲田を標榜する本学にとって、ひとつのロールモデルであり、その具様に、本日この機会に、名誉博士号を贈呈させていただくことは、まことに意義深いものと考えております。

また、明日のセレモニーには、高麗大学校のみなさまにご出席いただけるとのこと、誠にありがたく存じます。この機会を通じて、両大学の友好関係がこれまで以上に深まり、より強固なパートナーシップが築かれていくことを心から願っております。そして、早稲田大学は「研究の早稲田」「教育の早稲田」「貢献の早稲田」の使命を果たすべく「世界人類に貢献する大学」へと進化してまいる所存です。

これからも、高麗大学校と早稲田大学の友好関係・学術交流のますますの発展と、具滋烈（ク・ジャヨル）様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私の式辞を結ばさせていただきます。

ご静聴、誠に有り難うございました。